



Taka Ishii Gallery

Photography / Film

5-17-1 2F Roppongi Minato-ku Tokyo #106-0032, Japan

tel 03 6432 9212

fax 03 6432 9213

web [www.takaishiigallery.com](http://www.takaishiigallery.com)

email [tigpf@takaishiigallery.com](mailto:tigpf@takaishiigallery.com)

## 奈良原 一高 Ikko NARAHARA

- 1931 福岡県大牟田市生まれ
- 1954 中央大学法学部卒業
- 1955 「制作者懇談会」に参加、池田龍雄、河原温らと交流  
池田満寿夫、髪嘯らによるグループ「実存者」に参加
- 1959 早稲田大学大学院芸術（美術史）専攻修士課程修了
- 1959 東松照明、細江英公らとともにセルフ・エージェンシーVIVO を結成（1961 年解散）
- 1962 渡欧、パリを中心に 3 年間滞在（1965 年帰国）
- 1966 東京造形大学教授
- 1970 渡米、ニューヨークを中心に 4 年間滞在（1974 年帰国）
- 2020 没

## 主な個展

- 2026 「アートドキュメント 2025 受贈記念 時空の旅 奈良原一高の写真」金津創作の森美術館（福井）
- 2025 「消滅した時間」福岡市美術館（福岡）  
「コーナー展示 奈良原一高〈Tokyo, the '50s〉より」世田谷美術館（東京）  
「消滅した時間」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー / フィルム（東京）  
「奈良原一高一消滅した時間」長崎県美術館（長崎）
- 2024 「ヴェネツィアの夜」「ジャパネスク」福岡市美術館（福岡）  
受贈記念Ⅲ「奈良原一高 ヴェネツィアの光と闇」島根県立美術館（島根）  
「肖像の風景」JCII フォトサロン（東京）
- 2023 受贈記念Ⅱ「IKKO' S AMERICA」島根県立美術館（島根）  
「王国」福岡市美術館（福岡）  
開館 25 周年記念「奈良原一高 写真展 時空をこえた光」北海道立釧路芸術館（北海道）  
「特集：新収蔵 奈良原一高の写真」和歌山県立近代美術館（和歌山）  
「Fashion」amanaTIGP（東京）  
受贈記念・開館 40 周年記念「境界をみつめて 奈良原一高写真展」呉市立美術館（広島）
- 2022 「奈良原一高一王国 Domains」北海道立函館美術館（北海道）
- 2021 新収蔵展示「奈良原一高の写真」北海道立釧路芸術館（北海道）
- 2020 「生きる歓び」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京）

- 奈良原一高追悼展「消滅した時間」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京）
- 「奈良原一高「王国」とVIVOの時代」島根県立美術館（島根）
- 「人間の土地／王国 Domains」JCII フォトサロン（東京）[カタログ]
- 2019 「奈良原一高のスペイン——約束の旅」世田谷美術館（東京）[カタログ]
- 「Japanesque」La Vieille Eglise Saint-Vincent de Merignac（メリニャック、フランス）
- 2018 「《人間の土地》とグループ「実在者」」島根県立美術館（島根）
- 「肖像の風景」島根県立美術館（島根）
- 2016 「ヴェネツィアの夜」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京）
- 「消滅した時間」（第1部：近くて遥かな旅 1954 - 1974、第2部：眺めの彼方 1970 - 2002）
- フジフィルム スクエア（東京）
- 2015 「静止した時間」タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京）
- 2014 「王国」東京国立近代美術館（東京）[カタログ]
- 2010 「手のなかの空 奈良原一高」島根県立美術館（島根）[カタログ]
- 2004 「IKKO NARAHARA」Photo Forum（ビエンス、スイス）
- 「円」新宿ニコンサロン（東京、11月9日-22日）；その後 大阪ニコンサロン（大阪、12月16日-28日）へ巡回
- 2003 「HEAVEN - [天]」フォト・ギャラリー・インターナショナル（東京、5月8日-30日）；その後
- ギャラリーRAKU（京都、6月10日-22日）；九州産業大学美術館（福岡）へ巡回
- 2002 「王国」島根県立美術館（島根）
- 「Ikko Narahara」Maison Européenne de la Photographie（パリ、フランス）[カタログ]
- 2000 「Zen」Piccolo Teatro Strehler（ミラノ、イタリア）
- 「人間の土地」島根県立美術館（島根）
- 1999 「円 En - 7 Heavens + Circular Vision」バーソウ・フォト・ギャラリー（東京）
- 1998 「消滅した時間」フォト・ギャラリー・インターナショナル（東京、3月24日-4月24日）；その後
- ギャラリー807（北海道、5月14日-26日）他へ巡回
- 1997 「ポケット東京 1992 - 1997」コニカプラザ 東ギャラリー（東京）
- 「消滅した時間」台中摄影芸廊（台湾）；その後 台北摄影芸廊（台湾）へ巡回
- 1995 「ポケット東京」コニカプラザ 西ギャラリー（東京）
- 「東京スカイライン - ヴァーティカル・ホライゾン」コニカプラザ 西ギャラリー（東京）
- 「Tokyo, the '50s」モール（東京）
- 1994 「ブルー ヨコハマ」パスト・レイズ・フォトギャラリー（神奈川）
- 「1万5千回の夜の間に」プラザ・ギャラリー（東京）
- 1991 「ブロードウェイ」フォト・ギャラリー・インターナショナル（東京）
- 「復活の都市」フォト・ギャラリー・インターナショナル（東京）
- 1989 「天頂の街・ベルガモ」ウナック・サロン（東京）

- 1987 「人間の土地」フォト・ギャラリー・インターナショナル（東京、4月1日-28日）；その後 ピクチャー・フォト・スペース（大阪）へ巡回  
「無国籍地」ウナック・サロン（東京）  
「星の記憶」パルコギャラリー（東京）
- 1986 「デジタル・シティー」銀座ニコンサロン（東京、5月13日-18日）；その後 新宿ニコンサロン（東京、5月20日-26日）；大阪ニコンサロン（大阪、7月1日-7日）へ巡回
- 1985 「Ikko Narahara」Fotographia' 85（トリノ、イタリア）  
「光と闇・二つの世界」Walkerhill Art Center（ソウル、韓国）  
「肖像の風景」有楽町朝日ギャラリー（東京）
- 1984 「Ikko Narahara」Foto' 84（アムステルダム、オランダ）  
「ポラロイド 20" × 24"」池袋西武アート・フォーラム（東京）
- 1983 「奈良原一高写真展 詩・写真集『空気遠近法』発刊記念」池袋西武・ガレリア粋（東京）  
「夜行都市・ベネチア」銀座ニコンサロン（東京、5月10日-15日）；その後 新宿ニコンサロン（東京、5月17日-23日）；大阪ニコンサロン（大阪、6月1日-7日）へ巡回
- 1982 「光の回廊ーサン・マルコ出版記念展」パルコビュー・ギャラリー（東京）
- 1981 「IKKO NARAHARA」Photographer' s Gallery（ロンドン、イギリス）
- 1980 「ベネチアの光」新宿ニコンサロン（東京、11月1日-7日）；大阪ニコンサロン（大阪、11月1日-7日）へ巡回  
「光と波とー奈良原一高による朝倉響子彫塑写真集刊行記念」丸善画廊（東京）
- 1979 「近くて遙かな旅」銀座ニコンサロン（東京、10月2日-7日）；その後 新宿ニコンサロン（東京、10月9日-15日）；飯田画廊別館（東京、10月1日-14日）；ウナック・サロン（東京、10月1日-14日）；大阪番画廊（大阪）へ巡回  
「光の回廊ーサン・マルコ」和光ホール（東京）
- 1977 「ブロードウェイ' 73ー' 74」飯田画廊別館（東京）
- 1975 「静止した時間」写大ギャラリー（東京）  
「IKKO」ライト・ギャラリー（東京）
- 1974 「IKKO' S AMERICA」ニコンサロン銀座（東京）
- 1973 「世界批評家選抜展」Neikrug Gallery（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）  
「IKKO」Neikrug Gallery（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）；その後 ニコン・ハウス（東京）；George Eastman Museum（ロチェスター、ニューヨーク州、アメリカ）へ巡回
- 1972 「生きる歓び」西武百貨店（東京）
- 1970 「スペイン・偉大なる午後」池袋西武百貨店（東京）
- 1965 「スペイン・偉大なる午後」富士フォトサロン（東京、10月7日-20日）；壺番館画廊（東京、10月7日-20日）へ巡回
- 1960 「カオスの地」富士フォトサロン（東京）  
「ブルー ヨコハマ」月光ギャラリー（東京）
- 1959 「城」丸の内ギャラリー（東京）

- 1958 「王国」富士フォトサロン（東京、9月9日-15日）；富士フォトサロン（大阪、9月9日-15日）へ巡回
- 1956 「人間の土地」松島ギャラリー（東京）

## 主なグループ展

- 2025 国立美術館 コレクション・プラス「現代写真のはじまりとそれから」北海道立釧路芸術館（北海道）  
「コレクション展」横浜美術館（神奈川）  
開館30周年記念展 後期「写真と肖像 顔から風景へ」清里フォトアートミュージアム（山梨）  
「結成70周年記念 奈良原一高《無国籍地》と「グループ“実在者”」の仲間たち」島根県立美術館（島根）  
横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」横浜美術館（神奈川）  
山川コレクション収蔵記念「PHOTOGRAPHY 写真のこれまで／これから」愛媛県美術館（愛媛）
- 2024 「線表現の可能性」国立国際美術館（大阪）  
「写楽祭！ー日本の写真集 1950～70年代」フジフィルム スクエア（東京）  
「写真をめぐる100年のものがたり」静岡市美術館（静岡）[カタログ]  
「MOMAT コレクション」東京国立近代美術館（東京）  
「TOP コレクション 見ることの重奏」東京都写真美術館（東京）[カタログ]  
「Material provocativo para pensar. Fotografía japonesa contemporánea. Colección José Luis Soler Vila」Museo Carmen Thyssen Málaga（マラガ、スペイン）  
「TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション」東京国立近代美術館（東京、5月21日-8月25日）；その後 大阪中之島美術館（大阪、9月14日-12月8日）へ巡回[カタログ]  
「The Hong Kong Jockey Club Series: Noir & Blanc-A Story of Photography」M+（香港）  
「美術家たちの沿線物語 小田急線篇」世田谷美術館（東京）
- 2023 「FOOD for THOUGHT」タカ・イシイギャラリー 前橋（群馬）  
「TOP コレクション 何が見える？「覗き見る」まなざしの系譜」東京都写真美術館（東京）[カタログ]  
「ヴェネツィアー松尾敏男＋奈良原一高」長崎県美術館（長崎）
- 2022 「アートに耳をかたむけて 絵画と彫刻から聞こえる「音」」北海道立釧路芸術館（北海道）  
ミュージアム コレクションⅢ「それぞれのふたり 萩原朔美と榎本了壺」世田谷美術館（東京）  
「男と女」島根県立美術館（島根）  
「MOMAT コレクション」東京国立近代美術館（東京）  
「受贈記念 奈良原一高×勝井三雄」島根県立美術館（島根）  
「Earth: A Retrospective」Bombas Gens Centre d' Art（バレンシア、スペイン）

- 「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」両足院（京都）
- 2020 「The Gaze of Things: Japanese Photography in the Context of Provoke」Círculo de Bellas Artes（マドリード、スペイン）
- 2019 「MOMAT コレクション」東京国立近代美術館（東京）
- 「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」東京国立近代美術館（東京）[カタログ]
- 「浅間国際フォトフェスティバル PHOTO MIYOTA」（長野）
- 「JCII フォトサロンコレクション展」JCII フォトサロン（東京）[カタログ]
- 「The Gaze of Things: Japanese Photography in the Context of Provoke」Bombas Gens Centre d' Art（バレンシア、スペイン、2019 年 2 月 22 日－2020 年 2 月 2 日）[カタログ]；その後 Círculo de Bellas Artes（マドリード、スペイン、2020 年 7 月 3 日－8 月 30 日）へ巡回
- 2018 「建築×写真 ここのみに在る光」東京都写真美術館（東京）[カタログ]
- 「遠くへ行きたい」東京国立近代美術館（東京）
- 清里フォトアートミュージアム収蔵作品展 「原点を、永遠に。－2018－」東京都写真美術館（東京）
- 「奈良原一高 スペイン」高浜市やきものの里かわら美術館（愛知）
- 2016 「Black Sun/Red Moon: Pictures from Japan」Ratio 3（サンフランシスコ、カリフォルニア州、アメリカ）
- 2009 「日本の自画像：写真が描く戦後 1945-1964」世田谷美術館（東京、5 月 2 日－6 月 21 日）；その後 土門拳記念館（山形、8 月 27 日－10 月 28 日）；愛知県美術館（愛知、11 月 6 日－12 月 13 日）；清里フォトアートミュージアム（山梨、2010 年 6 月 5 日－8 月 31 日）へ巡回[カタログ]
- 2007 「VIVO」写大ギャラリー（東京）
- 2004 「In the Center of Things」Center for Creative Photography（ツーソン、アリゾナ州、アメリカ）
- 2003 「日本写真の歴史」The Museum of Fine Arts, Houston（ヒューストン、テキサス州、アメリカ）[カタログ]
- 「日本の写真 1945 - 1975」Hôtel de Sully（パリ、フランス）
- 「VIVO」島根県立美術館（島根）
- 2002 「写真と 20 世紀の風景」東京国立近代美術館（東京）
- 2001 「ギリシャ・フォトフェスタ The Spirit of Religion」Photographic Center of Skopelos（スボラデス、ギリシャ）
- 「Viva! ITALIA」東京都写真美術館（東京）[カタログ]
- 「Peace Art ポスター」Felissimo Design House（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ、12 月 20 日-2002 年 1 月 13 日）；その後 東京、その他へ巡回
- 「馬へのオマージュ」東京都写真美術館（東京）[カタログ]
- 1999 「写真表現の軌跡 - 1950 年代から現在まで」東京都写真美術館（東京）[カタログ]
- 1998 「戦後日本のリアリズム 1945 - 1960」名古屋市美術館（愛知）[カタログ]

- 1996 「1953 年 ライトアップ 新しい戦後美術が見えてきた」 目黒区美術館（東京）[カタログ]
- 1995 「写真都市・TOKYO」 東京都写真美術館（東京）[カタログ]  
「澁澤龍彦画廊」 日動画廊（東京）  
「Hyogo Aid '95 by Art: 23 Artists」 日本各地へ巡回
- 1994 「Reflection of Venice」 Princeton University Art Museum（プリンストン、ニュージャージー州、アメリカ）  
「Quest for the Moon」 The Museum of Fine Arts, Houston（ヒューストン、テキサス州、アメリカ）
- 1993 「時代をひらいた写真家たち 1960 - '70 年代」 東京都写真美術館（東京）[カタログ]
- 1991 「54 Master Photographers of 1960 - 1979」 International Center of Photography（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）  
「Venice」 Nieuwe Kerk（アムステルダム、オランダ）  
「日本写真の転換 1960 年代の表現」 東京都写真美術館（東京）[カタログ]  
「写真の 1955 - 65」 山口県立美術館（山口）[カタログ]
- 1990 「東京 - TOKYO」 有楽町西武アート・フォーラム（東京）  
「International View Point」 The Museum of Fine Arts, Houston（ヒューストン、テキサス州、アメリカ）
- 1987 「写真 1945 - 1985」 Museum für Kunst und Gewerbe Hamburg（ハンブルク、ドイツ）  
「魅惑のヴェネツィア」 プランタン銀座（東京、12 月 26 日-1988 年 1 月 19 日）；その後 大丸ミュージアム（大阪、1988 年 2 月 17 日-29 日）へ巡回
- 1986 「Houston Foto Fest Biennial Exhibition: Houston and the Rodeo」（ヒューストン、テキサス州、アメリカ）  
「JAPON DES AVANT GARDES 1910-1970」 Centre Pompidou（パリ、フランス）
- 1985 「パリ・ニューヨーク・東京」 つくば写真美術館'85（茨城）  
「Génération Polaroid」 Pavillon des Arts（パリ、フランス）
- 1982 「20 世紀の写真・ニューヨーク近代美術館コレクション展」 西武美術館（東京）[カタログ]  
「国立国際美術館所蔵展」 国立国際美術館（大阪）
- 1981 「Das Imaginare Photo-Museum」 Photokina（ケルン、ドイツ）  
「VIVO 展 1959-1962」 写大ギャラリー（東京）
- 1980 「THROUGH」 Galerie Vivienne（パリ、フランス）  
「第 1 回シャルルロワ国際写真トリエンナーレ」（シャルルロワ、ベルギー）
- 1979 「JAPAN: A Self Portrait」 International Center of Photography（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）  
「Fleeting Gestures: Dance Photographs」 International Center of Photography（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）  
「Fotografia Giapponese Dal 1848 ad Oggi」 Museo d'Arte Moderna di Bologna（ボローニャ、イタリア）

- 1978 「アルル国際写真フェスティヴァル」 (アルル、フランス)  
「VIVO 展」 Santa Barbara Museum of Art (カリフォルニア、カリフォルニア州、アメリカ)
- 1976 「Neue Fotografie aus Japan」 Kunsthaus Graz (グラーツ、オーストリア)  
「12 人の写真家による自薦作品展 写真売ります」 資生堂ザ・ギンザ (東京)
- 1974 「Ten Photographers」 McMaster Museum of Art (オンタリオ、オンタリオ州、カナダ)
- 1973 「NEW JAPANESE PHOTOGRAPHY」 The Museum of Modern Art, New York (ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ) [カタログ]
- 1968 「日本写真批評家協会賞受賞展」 ニコンサロン (東京)
- 1966 「現代写真の 10 人」 東京国立近代美術館 (東京)
- 1962 「NON 展」 銀座・松屋 (東京)
- 1960 「現代写真」 東京国立近代美術館 (東京)
- 1959 「第 2 回ヴェネツィア国際写真ビエンナーレ展」 (ヴェネツィア、イタリア)  
第 3 回「10 人の眼」 小西六ギャラリー (東京)
- 1958 第 2 回「10 人の眼」 小西六ギャラリー (東京)
- 1957 「国際主観主義写真展」 銀座・松屋 (東京)  
「10 人の眼」 小西六ギャラリー (東京)

## 受賞歴

- 2006 旭日小綬章
- 2005 日本写真協会功労賞
- 1996 紫綬褒章
- 1987 第 3 回東川賞国内作家賞
- 1986 日本写真協会年度賞
- 1968 第 18 回芸術選奨文部大臣賞 (『ヨーロッパ・静止した時間』)  
第 9 回毎日芸術賞 (『ヨーロッパ・静止した時間』)
- 1967 第 11 回日本写真批評家協会作家賞 (『ヨーロッパ・静止した時間』)
- 1959 第 2 回ヴェネツィア国際写真ビエンナーレ銅賞 (《坑夫》)
- 1958 第 2 回日本写真批評家協会新人賞 (「王国」)  
富士プロフェッショナル金賞 (《考える少女》)

## 主な出版物

- 『消滅した時間 Where Time Has Vanished』復刊ドットコム、2025 年
- 『Tokyo, the '50s / Blue Yokohama』復刊ドットコム、2025 年

『ヨーロッパ・静止した時間 WHERE TIME HAS STOPPED』復刊ドットコム、2022 年  
『奈良原一高のスペイン』クレヴィス、2019 年  
『王国 Domains』復刊ドットコム、2019 年  
『HUMAN LAND 人間の土地』復刊ドットコム、2017 年  
『太陽の肖像』白水社、2016 年  
『手の中の空 1954-2004』島根県立美術館、2010 年  
『円 En - Circular Vision』クレオ、2004 年  
『時空の鏡』新潮社、2004 年  
『天 HEAVEN』クレオ、2002 年  
『ポケット東京』クレオ、1997 年  
『空 Ku』リプロポート、1994 年  
『ブロードウェイ』クレオ、1991 年  
『星の記憶』パルコ出版、1987 年  
『ヴェネツィアの光』流行通信、1987 年  
『人間の土地』リプロポート、1987 年  
『ヴェネツィアの夜』岩波書店、1985 年  
『肖像の風景』新潮社、1985 年  
『空気遠近法』（詩・田村隆一）現代版画工房、1983 年  
昭和写真・全仕事シリーズ9『奈良原一高』朝日新聞社、1983 年  
『光の回廊ーサン・マルコ』ウナック・トウキョウ、1981 年  
『写真の時間』工作舎、1981 年  
『光と波と』パルコ出版、1980 年  
『日本の美・近くて遥かな旅』集英社、1979 年  
『王国』朝日ソノラマ、1978 年  
『SEVEN FROM IKKO』ウナック・トウキョウ、1977 年  
『消滅した時間』朝日新聞社、1975 年  
カメラ毎日別冊『生きる歓び』毎日新聞社、1972 年  
『EUROPEー筑摩フォトギャラリー』筑摩書房、1971 年  
「映像の現代」第1巻『王国』中央公論社、1971 年  
『ジャパネスク』毎日新聞社、1970 年  
『スペイン・偉大なる午後』求龍堂、1969 年  
『ヨーロッパ・静止した時間』鹿島研究所出版会、1967 年

## 主なパブリック・コレクション

フランス国立図書館（パリ、フランス）



ハンブルク美術館（ハンブルク、ドイツ）

国際写真センター（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）

J・ポール・ゲティ美術館（ロサンゼルス、カリフォルニア州、アメリカ）

北海道立釧路芸術館（北海道）

M+（香港）

ヨーロッパ写真美術館（パリ、フランス）

ボストン美術館（ボストン、マサチューセッツ州、アメリカ）

ヒューストン美術館（ヒューストン、テキサス州、アメリカ）

ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、ニューヨーク州、アメリカ）

国立国際美術館（大阪）

東京国立近代美術館（東京）

プリンストン大学美術館（プリンストン、ニュージャージー州、アメリカ）

世田谷美術館（東京）

島根県立美術館（島根）

台北市立美術館（台北、台湾）

多摩美術大学図書館（東京）

東京都写真美術館（東京）

横浜美術館（神奈川）